

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成24年 3月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科      アジア・アフリカ地域研究研究科

職 名・学 年            准 教 授

氏            名            水 野 一 晴

助 成 の 種 類	<b>平成23年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 研究成果物刊行助成</b>			
研 究 成 果 物 名	神秘の大地、アルナチャルーアッサム・ヒマラヤの自然とチベット人の社会			
著者・編著、作成者全員の所属・職 ・ 氏 名	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授・水野一晴			
学術書・論文集等について	出版社・印刷会社等名	発行年月日	配 布 先	
	昭 和 堂	2012年3月30日	関係研究者	
データベース等について	公 開 方 法		公 開 年 月 日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。合わせて、刊行・作成された研究成果物をご提出(ご提示)下さい。			
会 計 報 告	事業に要した経費総額	1,703,200 円		
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円		
	その他の資金の出所	著者負担・売上見込 703,200		
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	組版代	700,000	410,991	
	製版代	368,200	216,181	
	刷版代	108,000	63,410	
	印刷代	158,000	92,767	
	用紙代	230,000	135,040	
製本代	139,000	81,611		
合 計	1,703,200	1,000,000		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)  100万円の出版助成は本を出すきっかけになって大変ありがたかった。			

本書は、インドと中国の係争地帯、インド、アルナチャル・プラデシュ州のモンパ民族地域の自然、歴史、社会、経済、文化について多角的に記述した地域研究書である。当地域は 1990 年代まで長らく外国人の入域が禁じられていたため、これまで外国人研究者による調査がほとんど行われておらず、インド人による研究も限られている。そのようなベールに包まれた当地域を、5 年間にわたる現地調査から明らかにしていった。各章の要約を以下に記す。

## 第1章 アルナチャルの自然と社会・民族

「太陽が昇る辺境の地」アルナチャルは、中国とインド間の係争地帯で、かつてはチベットの一部分であったが、現在はインドに帰属している。国境紛争地帯であるがゆえ長らく外国人の入域が閉ざされ、現在はインド軍が多数駐留するベールに包まれた山岳地となっている。このアルナチャルは、周囲のチベットやブータン、アッサムとどのような関係にあるのだろうか。アッサムヒマラヤ（アルナチャルヒマラヤ）が連なる山岳地で、独自の社会や文化をつくりだしてきたモンパ民族に焦点をあて、彼らの民族性を分析した。

## 第2章 チベットからアルナチャルへの王の移住とクランの成立

9 世紀にモンユル（モンパの国）の土地にチベットの吐蕃王朝から王の一族が移住してきた。彼は新たにモンユルの王となり、城塞を構え、その使用人や兵士たちがこの土地に住み着いた。長い年月がたち、王族の子孫が上位クラン、使用人の子孫は下位クランとして、その主従関係が現代まで引き継がれている。王の居城であるゾン（砦）の設立とクラン（一族）の成り立ちを歴史的に解明した。

## 第3章 チベット仏教院による税の徴収とゾンの成立

ラサにあるチベット法王政府は各地に住民から税を徴収する役所としてゾン（砦）を設置し、地域社会を支配してきた。また、同時にタウン仏僧院を建造し、税の徴収のみならず、さまざまな形で住民に大きな影響力を示してきた。住民から集められた税はタウン仏僧院で消費され、一部は遠くラサまで運ばれた。各地域で集められた税はタウン仏僧院やラサまで、何がどのように運ばれていったのであろうか。モンパ地方におけるチベット法王政府やタウン仏僧院の存在とその影響力、地域住民との関係について歴史的に解明した。

## 第4章 チベット仏教、ボン（ボン）教、精霊信仰

古くからモンパ地域では土着の宗教としてボン（ボン）教が信仰されてきた。12 世紀にブータンよりチベット仏教のニンマ派が伝来し、15 世紀にはゲルク派がやってきた。チベット仏教はボン教と融合し、その特色は地域の社会や文化に色濃く表れている。タントラ仏教（後期密教）はこの地に大きな影響を与えてきた。現在のモンパ社会におけるボン教やチベット仏教の信仰と地域住民との関わりはどのようなものであるのかについて検討した。また、宗教に携わっている人たちの生活にも注目した。

## 第5章 森林分布と森林管理

山岳地アルナチャルにとって、森林は古くから地域住民にとって重要な資源であった。森林は住民たちによって「落葉を集める森林」「薪を集める森林」「深い森」の 3 つに区分され、それぞれに異なった仕方で管理されてきた。しかし、その貴重な資源が 1980 年代に入って急速に失われてきた。

有用材は不法伐採が絶えず、また、その価格は高騰していき、近年、地域住民はその保護活動を始めるにいたった。モンパ地域における森林分布と住民によるその利用と管理、およびその変容について捉えた。

## **第6章 ヤク放牧と牧畜民社会**

モンパ社会ではヤク放牧は重要な生業である。ヤクはいろいろな交配が行われており、それぞれの用途でそれぞれの種がうまく利用されている。また、高度によって適応種が使い分けられている。放牧地は森林を人為的に枯死させて作られ、牧畜民は季節移動しているが、一部を除けば牧畜民は冬の定住村で農耕をせず、その周辺の放牧地で牧畜を行っている。ヤクは住民によって様々な利用がなされ、単なる家畜に終わらず、モンパ社会と深くつながっている。牧畜民と農耕民の関係にも着目し、牧畜民社会を解明した。

## **第7章 農地の分布と農耕民社会**

モンパ地域の農耕は高度によって3つに区分され、それぞれに適した農耕が行われ、特徴的な農作物が作られている。古くから多くの農地はコナラの落葉を肥料として利用してきた。放牧地の多くは農耕民の土地であり、農耕民は牧畜民から土地の使用税を受け取り、両者の間には古くから個々の繋がりをもってきた。しかし、アルナチャルの近年の急速な開発は、農耕民社会にも大きな変化をもたらしている。過去から現在にいたる農耕民社会の現状と変容について考察した。